

ニタリクジラ 北西太平洋

(Bryde's whale *Balaenoptera edeni*)



ニタリクジラ (日本鯨類研究所提供)

管理・関係機関

農林水産省、国際捕鯨委員会 (IWC)

最近の動き

2022年より、本種を含む商業捕鯨対象種は漁獲可能量 (TAC) による管理に移行し、捕獲枠は、TAC 配分数量として設定されている。2024年8月には、海外有識者を招聘し捕獲可能量に関するレビュー会合を実施、捕獲可能量は154頭が妥当だという勧告を受けた (水産庁 2024a)。これを受け、2025年の操業 (管理年度令和7年1月1日～令和7年12月31日) では、母船式捕鯨業及び基地式捕鯨業に対し153頭のTAC配分数量が設定され (水産庁 2025)、EEZ内では143頭が捕獲され、操業は終了した。

利用・用途

刺身、鍋、竜田揚げ、くじらカツ、大和煮等、他のひげ鯨同様に食用として利用される。かつては、鯨油を工業原料として利用していたが、現在は需要がない。

漁業の概要

本種は、江戸時代から和歌山、高知や九州において網取り式捕鯨¹で捕獲していた (Omura 1966, 1977)。その後19世紀末から近代捕鯨²により捕獲するようになった。本種は1940年代末にニタリクジラと識別されるまではイワシクジラと同

種として扱われていた (Omura and Fujino 1954)。日本の捕鯨統計では、1955年から両種を区別して記録しており、1976年からはIWCにおいても、ニタリクジラとして独立に捕獲枠が設定 (Ohsumi 1995) されるようになった。なお、高知では、本種はカツオの群の中によく見いだされ、しかも本種がいるとカツオがよく獲れることから、「カツオクジラ」とも呼ばれていた。

本種の我が国沿岸におけるかつての主な漁場は三陸沖、小笠原諸島周辺、和歌山沖及び九州西方沖で、我が国が商業捕鯨モラトリアムへの異議申し立てを取り下げる1987年まで、これらの沿岸で本種を対象とした基地式の大規模捕鯨が行われていた。また、沖合域では、母船式捕鯨によって1946～1952年及び1971～1979年に本種が捕獲されていた (図1)。商業捕鯨モラトリアム以降、本種の捕獲は中断されていたが、2000年から第二期北西太平洋鯨類捕獲調査 (JARPN II) によって毎年50頭を上限とした捕獲が開始された。その後、国際司法裁判所の「南極における捕鯨」訴訟判決を受け、JARPN IIにおいても調査目的を限定する等、規模を縮小して調査が行われることとなり、2014年から本種の捕獲上限は25頭に変更された。JARPN IIは、2017年から新北西太平洋鯨類科学調査計画 (NEWREP-NP) に移行して終了した。NEWREP-NPでは本種を捕獲対象とせず、2017年から再び本種の捕獲が停止された。2019年のICRW脱退に伴い、2019年7月から、我が国の領海・EEZ内では、母船式捕鯨業による本種の商業捕獲が再開された。以降は、我が国が設定した捕獲枠の下に、2024年漁期ま

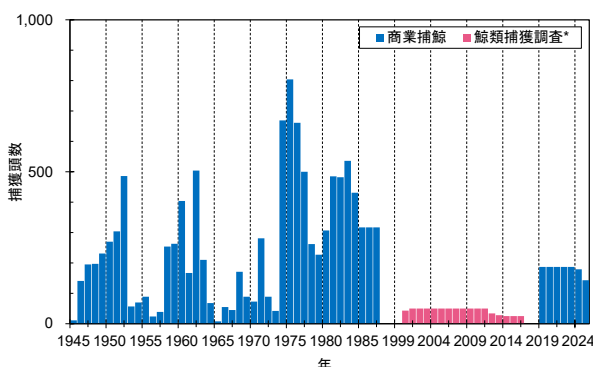


図1. 日本における西部北太平洋系ニタリクジラの漁業別捕獲量の推移 (1945～2025年、Ohsumi 1995、Allison 2000、日本鯨類研究所提供の情報に基づく)

*第2期北西太平洋鯨類捕獲調査。

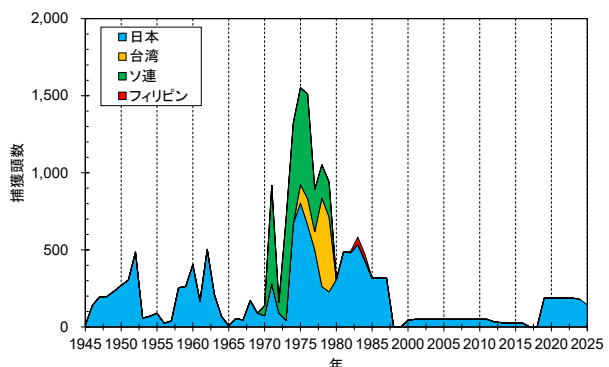


図2. 西部北太平洋系ニタリクジラの国・地域別捕獲量の推移 (1945～2025年、Ohsumi 1995、Allison 2000、日本鯨類研究所提供の情報に基づく)

では毎年187頭、2025年漁期は153頭を上限として捕獲されている。

我が国以外では、かつて、旧ソ連(母船式1970~1979年)、台湾(1976~1980年)、フィリピン(1983~1985年)及び韓国(1981年)が本種の捕鯨を行っていた(Ohsumi 1995)(図2)。

*1:鯨に網をかけて捕獲する我が国独自の捕鯨法。

1675年に太地で開発され、日本の各地に広まった(大隅 2002)。

*2 捕鯨船の舳先に備えた捕鯨砲でロープのついた捕鯨鉤を発射して、鯨を仕留める方法。

1864年にノルウェーで開発され、世界に広まった(大隅 2002)。

生物学的特性

本種の体長は10~16m、体重は12~20.3トンである。形態はイワシクジラに類似しているが、上顎部背面にある3本の稜線によって、洋上で他のひげ鯨類との識別が可能である(図3)。

本種は、赤道域から亜寒帯境界域にかけて、年間を通して表面水温およそ20℃以上の暖水域に分布する(Omura and Nemoto 1955, Kato 2002)(図4)。系群構造については、IWC 科学委員会において、フィリピン近海やソロモン諸島周

辺、メキシコ湾内等の沿岸域に見られるものを除き、北太平洋に少なくとも3系群(西経150度以東の沖合に分布する東部系群、東経130度~西経150度付近にかけて広く分布する西部北太平洋系群、東シナ海、黄海から九州、四国の沿岸に分布する東シナ海系群)が存在するものと考えられていた(Anon. (IWC) 1996)。このうち日本周辺には、西部北太平洋系群と東シナ海系群が見られ、両者は黒潮を境に沖合側(西部北太平洋系群)と沿岸側(東シナ海系群)に分かれて分布するとされた(Kato *et al.* 1996)(図5)。しかし、近年、mtDNA 分析と頭骨形態の分析により、本種は、*B. brydei*(西部北太平洋系群に相当)と*B. edeni*(東シナ海系群に相当)の2種に分かれるとする報告がなされた(Wada *et al.* 2003)。その後の研究でもこれを支持するもの(Kershaw *et al.* 2011)、あるいは少なくとも亜種レベルの違いがある(*B. edeni brydei*と*B. edeni edeni*)とするもの等諸説が提唱されているが、現在のところ、IWCでは種の分類を保留し、従来通りニタリクジラ*B. edeni*1種として扱っている。このため、本稿においても、両者をニタリクジラとして扱い、このうち北西太平洋に主に分布する西部北太平洋系群について主に記載する。なお、再開した商業捕鯨は、西部北太平洋系群を捕獲の対象としている。四国沿岸に分布する東シナ海系群は土佐湾等においてホエールウォッチングの対象として利用されている。

西部北太平洋系群は、目視調査や過去の捕獲位置、標識再捕(Kishiro 1996)の結果から、夏季にはフィリピン諸島沖合か



図3. 本種に特有な頭部の3本の隆起線

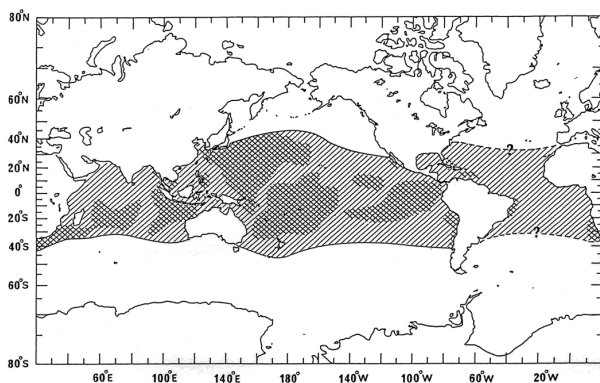


図4. ニタリクジラの分布域(網目は主分布域)(Kato 2002より)

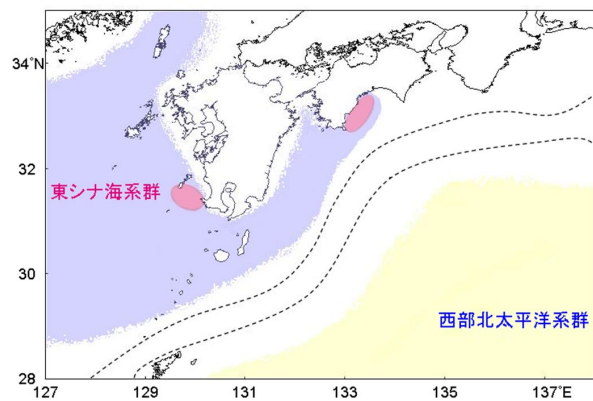


図5. 我が国周辺におけるニタリクジラ2系群の分布(Kato *et al.* 1996より)

桃色の丸は、1994年6~7月の調査でニタリクジラが発見された海域。

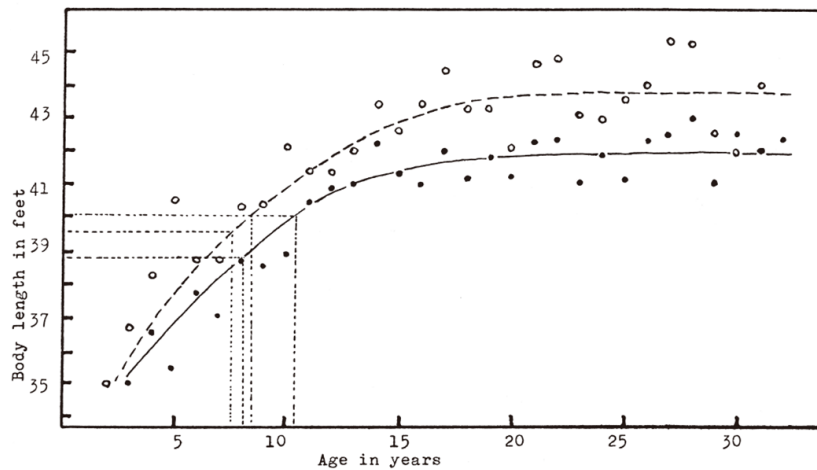


図6. 西部北太平洋系ニタリクジラの成長曲線（Ohsumi 1977より）
縦軸は体長（フィート）。実線と黒丸は雄、破線と白丸は雌を表す。

ら西経 150 度まで、南緯 2 度から北緯 43 度まで広範囲に分布していることが明らかになっている。この海域は、黒潮、黒潮続流、北太平洋海流、北赤道海流に挟まれた西部北太平洋中央水に該当する（島田ほか 2000）。冬季には、おおよそ北緯 30 度以南に分布し、北限は表面水温 20°C に該当する（Miyashita *et al.* 1996）。

出産は冬季を中心に行われるが、他種に比べ明瞭なピークはないことが商業捕鯨時代の捕獲物解析から明らかになっている。出産海域は特定されていないが低緯度域と想定されている。妊娠期間は 11 か月、約 2 年周期で 1 仔を出産する。出生体長は約 4.0 m、性成熟体長は雄が 11.0~11.4 m、雌が 11.6~11.8 m、肉体的成長が止まる成熟体長は雄が 13.0 m、雌が 13.5 m である（Kato and Yoshioka 1993）。50%の成熟体長から推定される性成熟年齢は 7~10 歳（Ohsumi 1977）（図 6）、最大寿命はおおよそ 60 歳である（Ohsumi 1979）。

餌生物はオキアミ及び魚類で（Nemoto and Kawamura 1977）、魚類ではカタクチイワシ、マサバ、ハダカイワシ等を捕食している（Nemoto 1959）。JARPN II の結果からは、食性が季節によって変化し、5~6 月にオキアミ、7~8 月にカタクチイワシを捕食していることが報告されている（Tamura and Fujise 2002）。索餌場は中低緯度海域である。本種を捕食する捕食者としてはシャチが挙げられる。

資源状態

【資源量】

西部北太平洋系群の資源量は、2000 年時点で 21,610 頭（変動係数 (CV) =0.466）、2011 年時点で 27,858 頭 (CV=0.300)（Hakamada *et al.* 2017）、2021 年時点で 16,518 頭 (CV=0.298)（Takahashi-Katayama *et al.* 2024）と推定されている（JRT 2024、Takahashi-Katayama *et al.* 2024）。

2000 年の推定には、1998~2002 年夏季に遠洋水産研究所（現：水産資源研究所）が実施したライントランセクト法に基づく目視調査のデータが使用された。同調査は、IWC 科学委員会の改訂管理方式 (RMP) 実施ガイドラインに従って、IWC 科学委員会で指名された乗船科学者による監督の下に実施され（Shimada 1999、2000、2001、2002、2003）、鯨類観測用の



図7. トップバレルを有する鯨類目視調査船
（赤丸内がトップバレル）



図8. トップバレルからの目視探索

トップバレルを有する調査船を用い（図 7）、双眼鏡を常時使用した目視探索が行われた（図 8）。洋上での種判別は、頭部の 3 本の稜線を確認することにより確実に行われた。合計 11 航海の航跡（総調査距離 22,709 海里）と発見位置（326 頭）を図 9 に示す。これらの調査は、広大な海域を複数年にわたってカバーしたものであるためプロセスエラーを考慮する必要がある。そのため、推定資源量の CV については、1988~1996 年の目視調査結果も用いて追加分散を求め、これを加える形がとられた（Kitakado *et al.* 2008、Shimada *et al.* 2008）。これらの値は IWC 科学委員会における本系群を対象とした 1 回目の RMP 適用試験（管理オプション、捕獲可能量等のシミュレーション）に用いられた（Anon. (IWC) 2008b）。

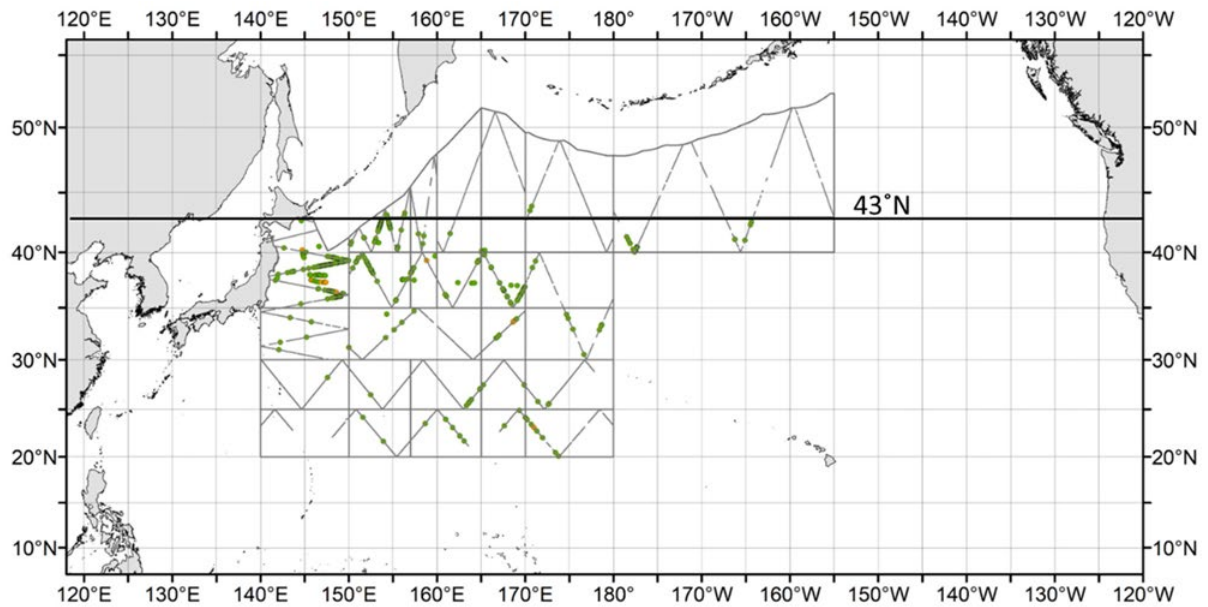


図9. 目視調査を実施した航跡と西部北太平洋系ニタリクジラの発見位置（2020～2023年8・9月）（JRT 2024）

2011年の推定には、2008～2015年に行われたJARPN IIの目視調査、及びIWC・日本共同北太平洋鯨類生態系調査（IWC-POWER）で得られた目視データが使用された。目視調査や解析手法は、前述と概ね同等である。IWC科学委員会では、2017年から2019年にかけて2回目のRMP適用試験が行われ、同推定値が2000年の推定値とともに用いられた（Anon. (IWC) 2020）。

なお、本資源に対して国内でRMPを運用し捕獲可能量を算出する際には、これらの値に対して調査線上の発見率（ $g(0)$ ）による補正が行われ（Hakamada *et al.* 2018）、2011年の資源量は27,858頭（1W区：17,307頭（ $CV=0.0241$ ）、1E区：10,551頭（ $CV=0.189$ ））と推定された（JRT 2024、1W区及び1E区に関する説明は「管理方策」を参照すること）。2024年には捕獲可能量が見直され、新たな目視調査の結果等を用いて（図9）、2021年の資源量は、16,518頭（1W区：11,504頭（ $CV=0.39$ ）、1E区：5,014頭（ $CV=0.409$ ））と推定された（JRT 2024、Takahashi-Katayama *et al.* 2024）。

【資源評価・水準・動向】

IWC科学委員会を実施された1996年の包括的資源評価において、当時の推定資源量と過去の捕獲データから、プログラム（HITTER・FITTER）を用いて過去の資源変動が再現され（図10）、当時の資源水準は、多くのケースで初期資源（1911年）の60～80%と比較的高位にあることが示された（Anon. (IWC) 1997）。その後の1回目及び2回目のRMP適用試験、及び2019年と2024年に我が国が実施したRMPに基づく捕獲可能量の算出過程においても、様々な不確実性を考慮したシミュレーションを通して、本系群が初期資源の60%を下回ることなく、将来も最大持続的生産量を得られるレベルを上回ることが示された（JRT 2019、2024）。これらの結果から、本系群の資源水準は中位以上にあり、資源動向は増加と判断した。

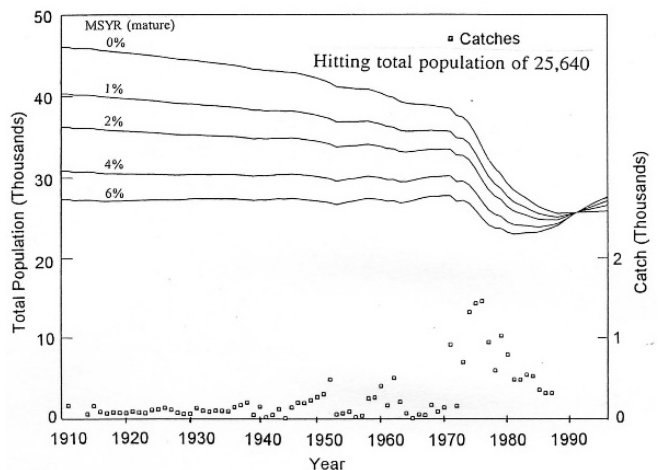


図10. プログラム（HITTER）による西部北太平洋系ニタリクジラの資源動向（1911～1987年、Anon. (IWC). 1997に基づく）縦軸は個体数（千頭）。

管理方策

本系群は、1976年にIWCの新管理方式（NMP）が北太平洋に適用された当時、初期管理資源に分類され捕鯨が継続されたが、その後、商業捕鯨モラトリアムが採択され、我が国は1987年漁期を最後に、商業捕鯨を停止した。以降、IWC科学委員会では、管理方式の改良と個別資源の包括的評価作業を進め、1993年に、不確実性を考慮したひげ鯨類の新たな管理方式としてRMPを完成した。本系群については、1996年の包括的資源評価を経て、管理海区として、新たにサブエリア1（東経130～180度、北緯10～43度）と、サブエリア2（180度～西経155度、北緯25～43度）の2つのサブエリアを設け（図11）、2005年からRMP適用のための作業が進められた。1回目のRMP適用試験は、様々なシミュレーションを通して、資源を持続的に利用可能な3つの管理オプションと1つの調査条件

- Revised Management Procedure. Annex D. J. Cetacean Res. Manage., 10 (Suppl.): 90-119.
- Anon. (IWC). 2008b. Report of the Sub-Committee on the Revised Management Procedure. Rep. Int. Whal. Commn., 60: 29 pp.
- Anon. (IWC). 2020. Report of the Scientific Committee: Annex D. J. Cetacean Res. Manage., 10(Suppl.): 77-106.
- Bando, T., Isoda, T., Nakai, K., Sato, H., Okitsu, Y., Tsunekawa, M., Yamasaki, M., Honma, H., and Eguchi, H. 2016. Cruise Report of the Second Phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPNII) in 2015 (part I) - Offshore component - Document SC/66b/SP02 submitted to the Scientific Committee of the 66th IWC. 34 pp.
- Bando, T., Kiwada, H., Mogoe, T., Isoda, T., Mori, M., Tsunekawa, M., Yoshimura, I., Nakai, K., Sato, H., Tanaka, H., Inagaki, M., Tamahashi, K., Yoshida, K., Morine, G., Watanabe, H., Fujiwara, G., Eguchi, K., and Tamura, T. 2010. Cruise report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2009 (part I) - offshore component. Document SC/62/O4 submitted to the Scientific Committee of the 62nd IWC. 34 pp.
- Bando, T., Konishi, K., Nakai, K., Sato, K., Yamagata, Y., Tsunekawa, M., Ueda, Y., Moriyama, R., Mure, H., and Ogawa, T. 2017. Cruise Report of the Second Phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPNII) in 2016 (part I) - Offshore component - Document SC/67a/SCSP04 submitted to the Scientific Committee of the 67th IWC. 15 pp.
- Bando, T., Konishi, K., Wada, A., Oikawa, H., Sato, H., Tsunekawa, M., Yoshimura, I., Konagai, T., Ueda, E., Murase, H., and Ogawa, T. 2014. Cruise report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2013 (part I) - offshore component. Document SC/65b/SP02 submitted to the Scientific Committee of the 65th IWC. 23 pp.
- Bando, T., Mogoe, T., Isoda, T., Wada, A., Mori, M., Tsunekawa, M., Tamahashi, K., Moriyama, R., Miyakawa, N., Kadowaki, I., Watanabe, H., and Ogawa, T. 2013. Cruise report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2012 (part I) - offshore component. Document SC/65a/O3 submitted to the Scientific Committee of the 65th IWC. 33 pp.
- Fujise, Y., Pastene, L.A., Tamura, T., Bando, T., Murase, H., Kawahara, S., Watanabe, H., Ohizumi, H., Mogoe, T., Kiwada, H., Nemoto, K., and Narita, H. 2001. Progress report of the feasibility study of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the western North Pacific - Phase II (JARPN II) in 2000. Document SC/53/O10 submitted to the Scientific Committee of the 53rd IWC. 77 pp.
- Fujise, Y., Tamura, T., Bando, T., Watanabe, H., Kiwada, H., Otani, S., Kanda, N., Yasunaga, G., Mogoe, T., Konishi, K., Inamori, M., Shigemune, H., and Tohyama, D. 2002. Cruise Report of the feasibility study of the Japanese whales research program under special permit in the western North Pacific - Phase II (JARPN II) in 2001. Document SC/54/O16 submitted to the Scientific Committee of the 54th IWC. 51 pp.
- Fujise, Y., Tamura, T., Bando, T., Yasunaga, G., Konishi, K., Murase, H., Yoshida, T., Itoh, S., Ogawa, R., Oka, T., Sasaki, T., Fukutome, K., Isoda, T., Birukawa, N., Horii, N., Zharikov, K.A., Park, K.J., Tohyama, D., and Kawahara, S. 2003. Cruise Report of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the western North Pacific - Phase II (JARPN II) in 2002 (part I) - Offshore component -. Document SC/55/O7 submitted to the Scientific Committee of the 55th IWC. 41 pp.
- Hakamada, T., Matsuoka, K. and Miyashita, T. 2018. Update g(0) estimation for western North Pacific Bryde's whales and its application to previous abundance estimates. Paper SC/67B/ASI/15 Rev2 submitted to the Scientific Committee of the 67th IWC. 11 pp.
- Hakamada, T., Takahashi, M., Matsuoka, K., and Miyashita, T. 2017. Abundance estimate for western North Pacific Bryde's whale by sub-areas based on IWC-POWER and JARPNII sighting survey. Document SC/67a/RMP04 submitted to the Scientific Committee of the 67th IWC. 18 pp.
- JRT. 2019. Catch limits for western North Pacific sei, Bryde's and common minke whales calculated in line with the IWC's Revised Management Procedure (RMP). 56 pp. <https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/attach/pdf/index-63.pdf> (2024年12月25日)
- JRT. 2024. A revision of the catch limits for western North Pacific sei and Bryde's whales calculated in line with the IWC's Revised Management Procedure (RMP). 55pp. <https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/attach/pdf/index-48.pdf> (2025年3月18日)
- Kato, H. 2002. Bryde's whales. *In* Perrin, W.F., Wursig, B. and Thewissen, J.H.G.M. (eds.), Encyclopedia of marine mammals. Academic Press. 171-177 pp.
- Kato, H., Shinohara, E., Kishiro, T., and Noji, S. 1996. Distribution of Bryde's whales off Kochi, Southwest Japan, from the 1994/95 sighting survey. Rep. Int. Whal. Commn., 46: 429-436.
- Kato, H., and Yoshioka, M. 1993. Biological parameters and morphology of Bryde's whales in the western North Pacific, with reference stock identification. Document SC/47/ NP11 submitted to the Scientific Committee of the 46th IWC. 19 pp.
- Kershaw, F., Leslie, M.S., Collins, T., Mansur, R.M., Smith, B.D., Minton, G., Baldwin, R., Leduc, R.G., Anderson, C., Brownell, R.L., and Rosenbaum, H.C. 2011. New insights on taxonomy and population structure of "Bryde's whale" species across

- the Indo-Western Pacific. Document SC/63/O19 submitted to the Scientific Committee of the 63rd IWC. 15 pp.
- Kishiro, T. 1996. Movements of marked Bryde's whales in the western North Pacific. Rep. Int. Whal. Commn., 46: 421-428.
- Kitakado, T., Shimada, H., Okamura, H., and Miyashita, T. 2008. CLA abundance estimates for western North Pacific Bryde's whales and their associated CVs with taking the additional variance into account. Document SC/60/PFI3 submitted to the Scientific Committee of the 60th IWC. 27 pp.
- Matsuoka, K., Otani, S., Isoda, T., Wada, A., Kumagai, S., Ohshima, T., Yoshimura, I., Sugiyama, K., Aki, M., Kato, K., Bhuiyan, M.M.U., Funasaka, N., Suzuki, Y., Sudo, R., Motohashi, Y., Mori, M., Tsunekawa, M., Inagake, D., Murase, H., and Ogawa, T. 2008. Cruise report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under special permit in the western North Pacific (JARPN II) in 2007 (part I) - offshore component. Document SC/55/O7 submitted to the Scientific Committee of the 60th IWC. 40 pp.
- Miyashita, T., Kishiro, T., Higashi, N., Mori, K., and Kato, H. 1996. Winter distribution of cetaceans in the western North Pacific inferred from sighting cruises 1993-1995. Rep. Int. Whal. Commn., 46: 437-444.
- Nemoto, T. 1959. Food of baleen whales with reference to whale movements. Sci. Rep. Whal. Res. Inst., 14: 149-290.
- Nemoto, T., and Kawamura, A. 1977. Characteristics of food habits and distribution of baleen whales with special reference to the abundance of the North Pacific sei and Bryde's whales. Rep. Int. Whal. Commn., Special Issue, 1: 80-87.
- Ohsumi, S. 1977. Bryde's whales in the pelagic whaling ground of the North Pacific. Rep. Int. Whal. Commn., Special Issue, 1: 140-150.
- Ohsumi, S. 1979. Interspecies relationships among some biological parameters in cetaceans and estimation of the natural mortality coefficient of the Southern Hemisphere minke whale. Rep. Int. Whal. Commn., 29: 397-406.
- Ohsumi, S. 1995. A review on population studies of the North Pacific Bryde's whale stocks. Document SC/47/NP14 submitted to the Scientific Committee of the 47th IWC. 35 pp.
- 大隅清治. 2002. 鯨類資源の利用の歴史と IWC. *In* 加藤秀弘・大隅清治 (編), 鯨類資源の持続的利用は可能か. 生物研究社, 東京. 26-27 pp.
- Omura, H. 1966. Bryde's whale in the northwest Pacific. *In* Norris, K.S. (ed.), Whales, dolphins and porpoises. 70-78 pp.
- Omura, H. 1977. Review of the occurrence of Bryde's whale in the northwest Pacific. Rep. Int. Whal. Commn., Special Issue, 1: 88-91.
- Omura, H., and Fujino, K. 1954. Sei whales in the adjacent waters of Japan. II. Further studies on the external characters. Sci. Rep. Whales Res. Inst. Tokyo, 9: 89-103.
- Omura, H., and Nemoto, T. 1955. Sei whales in the adjacent waters of Japan. III. Relation between movement and water temperature. Sci. Rep. Whales Res. Inst. Tokyo, 10: 79-87.
- Shimada, H. 1999. Report of the western North Pacific Bryde's whale sighting survey in summer, 1998. Document SC/51/RMP4 submitted to the Scientific Committee of the 50th IWC. 11 pp.
- Shimada, H. 2000. Report of a sighting survey on western North Pacific Bryde's whale conducted in August-September 1999. Document SC/52/RMP9 submitted to the Scientific Committee of the 51st IWC. 15 pp.
- Shimada, H. 2001. Report of a sighting survey on western North Pacific Bryde's whale conducted in August-September 2000. Document SC/53/RMP8 submitted to the Scientific Committee of the 52nd IWC. 8 pp.
- Shimada, H. 2002. Report of a sighting survey on western North Pacific Bryde's whale conducted in August-September. Document SC/54/RMP13 submitted to the Scientific Committee of the 53rd IWC. 8 pp.
- Shimada, H. 2003. Report of a sighting survey on western North Pacific Bryde's whale conducted in August-September 2002. Document SC/55/RMP1 submitted to the Scientific Committee of the 54th IWC. 11 pp.
- 島田裕之・宮下富夫・増淵久貢. 2000. ニタリクジラの夏期分布と海洋構造. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集. 81.
- Shimada, H., Okamura, H., Kitakado, T., and Miyashita, T. 2008. Abundance estimate of western North Pacific Bryde's whales for the estimation of additional variance and CLA application. Document SC/60/PFI2 submitted to the Scientific Committee of the 60th IWC. 34 pp.
- 水産庁. 2019. 商業捕鯨の再開について.
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kokusai/190701.html> (2024 年 12 月 25 日)
- 水産庁. 2024a. イワシクジラ・ニタリクジラの捕獲可能量再計算について. 21 pp.
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/attach/pdf/catchlimit-1.pdf> (2025 年 3 月 18 日)
- 水産庁. 2024b. 令和 6 管理年度における捕鯨業の漁獲可能量 (TAC) 配分数量の期中改訂について. 1 pp.
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/management/attach/pdf/R6-6.pdf> (2025 年 3 月 18 日)
- 水産庁. 2025. 特定水産資源 (いわしくじら、にたりくじら、みんくくじら及びながすくじら) に関する令和 7 管理年度における漁獲可能量等. 5 pp.
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/attach/pdf/index-98.pdf> (2025 年 12 月 5 日)
- Takahashi-Katayama, M., Hakamada, T. and Matsuoka, K. 2024. Abundance estimates of Bryde's whales in the North Pacific Ocean based on dedicated sighting surveys conducted in the period 2020-2023, including considerations on g(0). (2020~2023年に実施された目視専門調査に基づく北太平洋ニタリクジラの資源量推定値 (g(0)の考察を含む)).

- Document RW/A24/08 submitted the Scientific Workshop for the review of North Pacific sei and Bryde's whales.
- Tamura, T., and Fujise, Y. 2002. Food habit of Bryde's whales based on JARPN II. Document SC/54/O17, Appendix 2 submitted to the Scientific Committee of the 53rd IWC. 64-74 pp.
- Tamura, T., Fujise, Y., Bando, T., Yasunaga, G., Konishi, K., Kiwada, H., Isoda, T., Itoh, S., Machida, S., Tsunekawa, M., Konagai, T., Takamatsu, T., Ohshima, T., Honjo, K., Matsuoka, T., Zharikov, K.A., An, Y.R., Tohyama, D., and Kawahara, S. 2004. Cruise Report of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the western North Pacific - Phase II (JARPN II) in 2003 (part I) - Offshore component -. Document SC/56/O13 submitted to the Scientific Committee of the 56th IWC. 47 pp.
- Tamura, T., Fujise, Y., Mogoe, T., Kanda, N., Yasunaga, G., Konishi, K., Kiwada, H., Ogihara, M., Hasegawa, A., Kitajima, M., Sugiyama, T., Sasaki, T., Mori, M., Teraoka, T., Tsunekawa, M., Fukutome, K., Zharikov, K.A., Na, J.-H., Tohyama, D., Inagake, D., and Kawahara, S. 2005. Cruise Report of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the western North Pacific - Phase II (JARPN II) in 2004 (part I) - Offshore component -. Document SC/57/O3 submitted to the Scientific Committee of the 57th IWC. 33 pp.
- Tamura, T., Kanda, N., Nakai, K., Sakamoto, N., Okitsu, Y., Kato, K., Yoshii, K., Mori, M., Tsunekawa, M., Kawane, S., Yamaguchi, F., Honma, H., and Ogawa, T. 2015. Cruise Report of the Second Phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2014 (part I) - Offshore component -. Document SC/66a/SP06 submitted to the Scientific Committee of the 66th IWC. 33 pp.
- Tamura, T., Matsuoka, K., Bando, T., Mogoe, T., Konishi, K., Mori, M., Tsunekawa, M., Okamoto, K., Funasaka, N., Sakajiri, H., Yoshida, Y., Kumagai, S., Kimura, K., Takamatsu, T., Konagai, T., Sasaki, S., Kuwaoka, J., and Ogawa, T. 2007. Cruise Report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2006 (part I) - Offshore component -. Document SC/59/O5 submitted to the Scientific Committee of the 59th IWC. 26 pp.
- Tamura, T., Mogoe, T., Nakai, K., Mori, M., Tsunekawa, M., Yoshimura, I., Ishikawa, Y., Kawabe, S., Yamaguchi, F., Yamazaki, M., Ueta, E., Watanabe, H., and Eguchi, K. 2012. Cruise Report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2011 (part I) - Offshore component -. Document SC/64/O3 submitted to the Scientific Committee of the 64th IWC. 28 pp.
- Tamura, T., Otani, S., Isoda, T., Wada, A., Yonezaki, S., Mori, M., Tsunekawa, M., Fukutome, K., Nakai, K., Satoh, H., Nomura, I., Nagatsuka, S., Umatani, M., Koyanagi, T., Takamatsu, T., Kawabe, S., Kandabashi, S., Watanabe, H., Kumagai, S., Sato, T., and Ogawa, T. 2009. Cruise Report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2008 (part I) - Offshore component -. Document SC/59/O4 submitted to the Scientific Committee of the 61st IWC. 49 pp.
- Tamura, T., Otani, S., Kiwada, H., Mori, M., Konishi, K., Isoda, T., Wada, A., Ogihara, M., Hasegawa, A., Kumagai, S., Komatsu, W., Hayasaka, K., Fukutome, M., Siozaki, M., Zharikov, K.A., Na, J.-H., Ogawa, T., Watanabe, H., Yonezaki, S., Inagake, D., and Kawahara, S. 2006. Cruise report of the second phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2005 - Offshore component -. Document SC/58/O8 submitted to the Scientific Committee of the 58th IWC. 52 pp.
- Wada, S., Oishi, M., and Yamada, T. 2003. A newly discovered species of living baleen whale. *Nature*, 426: 278-281.
- Yasunaga, G., Kiwada, H., Mogoe, T., Wada, A., Nakai, K., Mori, M., Tsunekawa, M., Kasai, H., Ohshima, T., Yoshimura, I., Sato, H., Sakamoto, N., Watanabe, H., Fujiwara, G., Ogawa, T., and Tamura, T. 2011. Cruise Report of the Second Phase of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific (JARPN II) in 2010 (part I) - Offshore component -. Document SC/63/O2 submitted to the Scientific Committee of the 63rd IWC. 38 pp.
- Zenitani, R., Fujise, Y., Matsuoka, K., Tamura, T., Bando, T., Ishihashi, H., Shimokawa, T., Krasnenko, A., Taguchi, F., Kinoshita, T., Mori, M., Watanabe, M., Ichinomiya, D., Nakamura, M., Sakai, K., Matsunaga, K., Kamei, H., and Tohyama, D. 1999. Cruise report of the Japanese Whale Research Program under a Special Permit in the North Pacific in 1998. Document SC/51/RMP7 submitted to the Scientific Committee of the 51st IWC. 20 pp.

データの出典

- Allison, C. 2020. IWC summary catch database Version 7.1; Date: 23 December 2020.
<https://iwc.int/management-and-conservation/whaling/tal-catches> (2026年2月22日)

ニタリクジラ（北西太平洋）の資源の現況（要約表）

世界の漁獲量 (最近5年間)	我が国以外では商業利用されていない
我が国の漁獲量 (最近5年間)	最近(2021~2025)年:最大187頭/年
資源評価の方法	船舶による目視調査から推定した最新の資源量推定値
資源の状態 (資源評価結果)	北太平洋ニタリクジラ管理海区の2021年の推定資源量 16,518頭(CV=0.298)*2 初期資源量に対する現存資源量の割合は60%以上 (RMPのもと捕獲可能量算出が可能なレベル) RMPに基づく捕獲可能量の算出過程におけるシミュレーションを通して、 本系群の資源水準は中位以上にあり、資源動向は増加傾向にあると判断
管理目標	初期資源量の60%の資源水準を維持できる値
管理措置 ³	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産大臣による許可制 (許可隻数:母船式捕鯨業1船団(母船1隻、独航船3隻)、基地式捕鯨業5隻、) ・洋上解体の禁止と鯨体処理場の指定 (北海道網走市、北海道釧路市、青森県八戸市、宮城県石巻市、千葉県南房総市、和歌山県太地町)*4 ・TAC(漁獲可能量)配分数量を設定(153頭/2025年) ・水産庁職員による捕獲頭数管理 ・衛星を利用した船舶位置の確認 ・DNA登録及び市場調査による違法捕獲物の市場流入防止
管理機関・関係機関	農林水産省、IWC
最近の資源評価年	2024年
次回の資源評価年	2031年までに実施予定

*1 再開された母船式捕鯨業による。

*2 g(0)補正済みの資源量推定値

*3 2019年7月からの管理措置を記載。

*4 基地式捕鯨業のみの管理措置。

付表. ニタリクジラ西部北太平洋系群の捕獲頭数 (1911~2025年)

(Anon.(IWC).1997、Fujise *et al.*2001、2002、2003、Tamura *et al.*2004、2005、2006、2007、2009、2012、2015、Matsuoka *et al.*2008、Bando *et al.*2010、2013、2014、2016、2017、Yasunaga *et al.*2011、日本鯨類研究所提供の情報に基づく)。

年	雄	雌	合計	年	雄	雌	合計
1911	94	74	168	1971	382	537	919
1912	0	0	0	1972	64	96	160
1913	0	0	0	1973	230	468	698
1914	35	27	62	1974	554	769	1323
1915	90	72	162	1975	714	719	1433
1916	50	40	90	1976	790	669	1459
1917	40	31	71	1977	503	443	946
1918	47	37	84	1978	352	244	596
1919	44	34	78	1979	590	438	1028
1920	41	33	74	1980	442	351	793
1921	53	42	95	1981	249	236	485
1922	47	37	84	1982	275	207	482
1923	41	33	74	1983	402	143	545
1924	63	49	112	1984	353	175	528
1925	67	53	120	1985	249	108	357
1926	77	61	138	1986	217	100	317
1927	65	51	116	1987	256	61	317
1928	43	34	77	1988	0	0	0
1929	34	27	61	1989	0	0	0
1930	36	28	64	1990	0	0	0
1931	75	60	135	1991	0	0	0
1932	56	45	101	1992	0	0	0
1933	51	41	92	1993	0	0	0
1934	56	45	101	1994	0	0	0
1935	56	44	100	1995	0	0	0
1936	54	42	96	1996	0	0	0
1937	82	65	147	1997	0	0	0
1938	95	75	170	*1998	0	1	1
1939	114	90	204	1999	0	0	0
1940	27	22	49	**2000	21	22	43
1941	84	67	151	**2001	17	33	50
1942	12	9	21	**2002	25	25	50
1943	27	22	49	**2003	19	31	50
1944	68	53	121	**2004	19	31	50
1945	6	5	11	**2005	21	29	50
1946	70	71	141	**2006	21	29	50
1947	111	92	203	**2007	23	27	50
1948	104	93	197	**2008	30	20	50
1949	128	103	231	**2009	18	32	50
1950	124	146	270	**2010	25	25	50
1951	168	136	304	**2011	20	30	50
1952	312	174	486	**2012	11	23	34
1953	32	25	57	**2013	13	15	28
1954	39	31	70	**2014	6	19	25
1955	32	57	89	**2015	14	11	25
1956	15	9	24	**2016	11	14	25
1957	14	25	39	2017	0	0	0
1958	114	140	254	2018	0	0	0
1959	154	109	263	2019	82	105	187
1960	189	215	404	2020	85	102	187
1961	84	83	167	2021	69	118	187
1962	212	292	504	2022	80	107	187
1963	102	108	210	2023	74	113	187
1964	26	42	68	2024	75	104	179
1965	3	5	8	2025	56	87	143
1966	20	35	55	合計	11,526	10,614	22,140
1967	18	27	45				
1968	71	100	171				
1969	34	55	89				
1970	63	76	139				

* 誤射による捕殺を含む (Zenitani *et al.*1999)

**第2期北西太平洋鯨類捕獲調査による捕獲